

国道10号・220号 安全性向上検討委員会

第一回委員会

宮崎河川国道事務所・延岡河川国道事務所

平成27年9月16日



目 次

1. 事故ゼロプランの取り組み・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
2. 宮崎県内直轄国道における取り組み経緯・・・・・・・・ 6
3. 宮崎県内直轄国道における事故発生特性・・・・・・・・ 25
4. 事故危険区間リストの更新・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
5. 今後の予定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36

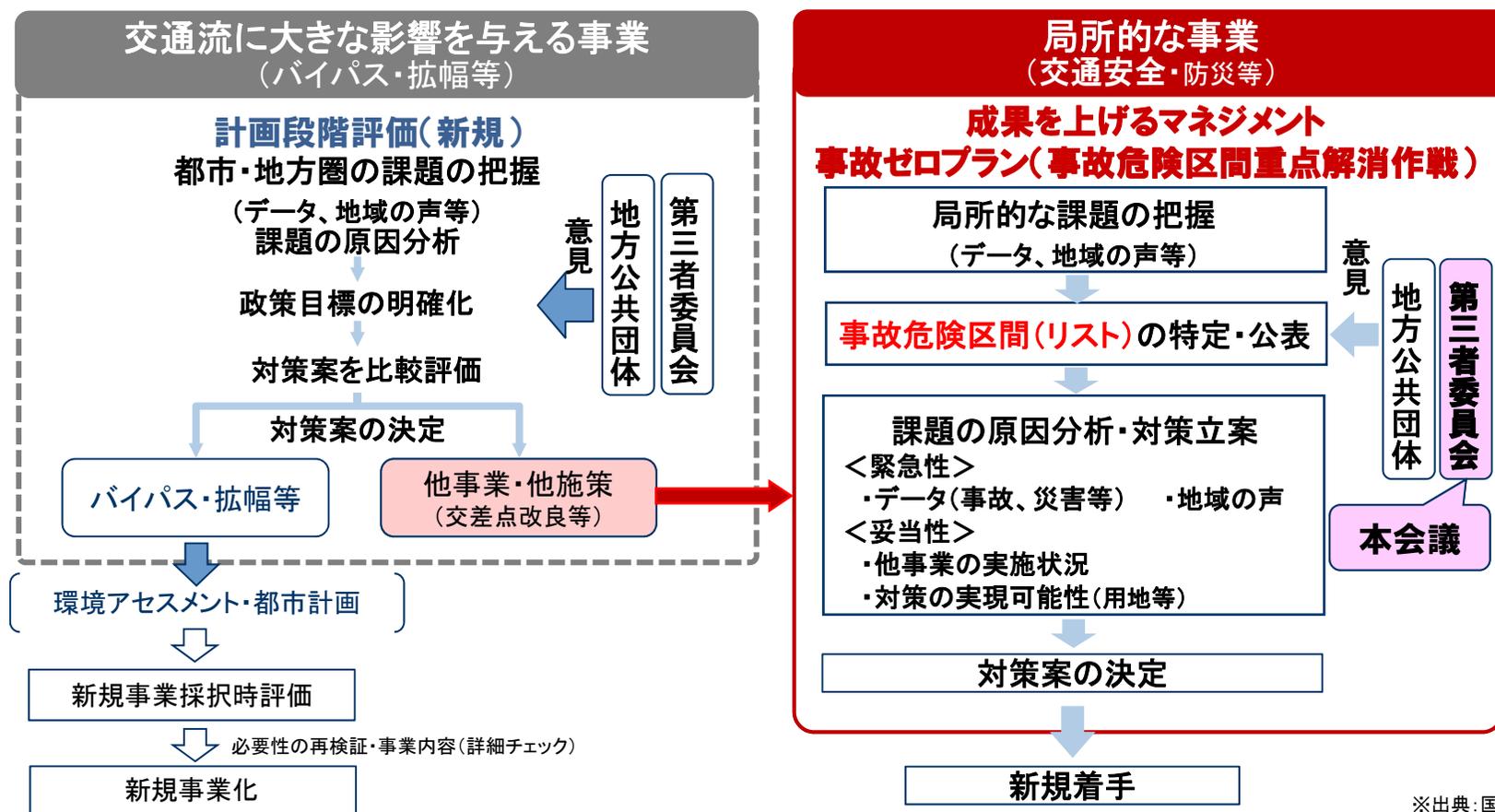


1. 事故ゼロプランの取り組み

1. 事故ゼロプランの取り組み

(1) 事故ゼロプランとは

- 国土交通省では、公共事業の効率性及びその実施過程の透明性の一層の向上を図るため、平成22年度より「政策目標評価型事業評価」を導入し、局所的な事業である交通安全分野においては『事故ゼロプラン（事故危険区間解消作戦）』を展開
- 「選択と集中」「市民参加・市民との協働」により重点的、集中的に対策を講じることで効果的、効率的に事故を削減することを目指す



▲政策目標評価型事業評価の仕組み

※出典:国土交通省資料

1. 事故ゼロプランの取り組み

事故ゼロプラン展開中

直轄国道(国道10号・220号のみ)

全ての道路を対象(幹線道路+生活道路)

■成果を上げるマネジメント「事故ゼロプラン」

- ・宮崎県内直轄国道185区間を選定
- ・**H22年度**、限られた予算の中、交通事故対策への投資効率を最大限に高めるため、データや地域の声に基づいた「成果を上げるマネジメント」を導入。「事故ゼロプラン」がスタート。
- ・**H23年**「第9次交通安全基本計画」が策定され、「事故ゼロプラン」が幹線道路における主要施策に位置づけられる。
- ・**H24年**「社会資本整備重点計画」が策定され、「事故ゼロプラン」が幹線道路における主要施策に位置づけられる。

継続中
(5年目)

社会資本整備重点計画

■第一次(H15～19)

■事故危険箇所

[H15.7指定](H15～19)

- ・幹線道路の事故削減対策の科学的・集中的な実施。全国3,956箇所

■第二次(H20～24)※H24廃止

■事故危険箇所

[H20.12指定](H20～24)

- ・全国3,396箇所を指定

■第三次(H24～28)

■事故危険箇所

[H25.7指定](H24～28)

- ・全国3,490箇所を指定

■第四次(H28～32)

■事故危険箇所

■生活道路における緊急性の高いエリア

交通安全基本計画

■第6次(H8～12)

- ・事故多発地点対策

■第7次(H13～17)

- ・事故多発地点対策

■第8次(H18～22)

- ・優先度明示方式の活用
- ・事故危険箇所対策

■第9次(H23～27)

- ・優先度明示方式の活用
- ・事故危険箇所対策
- ・**事故ゼロプラン**

■第10次(H28～32)

- ・事故ゼロプラン
- ・機能分化による暮らしの道の再生
- ※今年度策定予定

2. 宮崎県内直轄国道における 取り組み経緯

2. 宮崎県内直轄国道における取り組み経緯

(2) 事故危険区間リストの作成

- 平成22年度に2回の委員会を開催し、事故危険区間リストを選定
- 選定にあたり、WEBアンケート、ヒアリング調査を実施

日時	概要
第一回 平成22年 11月24日	<ul style="list-style-type: none">・委員会設立の主旨説明・事故危険区間リストの抽出の考え方(案)・地域からの意見の聴取方法(案)・公表区間の考え方(案)
第二回 平成22年 12月17日	<ul style="list-style-type: none">・地域からの意見の聴取結果・事故危険区間リストの抽出結果・代表箇所を選定結果・公表資料の提案



2. 宮崎県内直轄国道における取り組み経緯

(2) 事故危険区間リストの作成

- 宮崎県内の直轄国道すべてを対象
- 事故対策と歩道整備について、データ、地域の声により抽出

宮崎県内の直轄国道（国道10号:180.8km、国道220号:92.6km、合計273.4km）

事故対策(車両事故対策)が必要な区間の抽出

歩道整備(歩行者事故対策)が必要な区間の抽出

A. 事故が多発
(データ)

- ・死傷事故率
が高い
- ・死傷事故件数
が多い

B. 重大事故が発生
(データ)

- ・事故危険箇所
- ・死亡・重大事故が発生

C. 安全性の懸念
(地域の声)

- ・地域が懸念する箇所
- ・公安委員会からの
指摘があった箇所
- ・道路管理者の点検に
よる対策必要箇所

D. 歩道の整備状況
(データ)

- ・両側の歩道幅員が2m未満
- ・通学路指定あり
- ・通学者(小中高)あり
- ・歩行者事故が発生
- ・連続する歩道が必要

E. 安全性の懸念
(地域の声)

- ・地域が懸念する箇所

事故危険区間リスト 185区間

事故の危険性が高く、早期の対策が望まれる区間を抽出

代表箇所 47箇所

2. 宮崎県内直轄国道における取り組み経緯

(2) 事故危険区間リストの作成

< 事故対策(車両事故対策)が必要な区間の抽出の条件 >

	抽出指標	条件	使用データ・考え方
A. 事故が多発	① 死傷事故率	300件/億台キロ以上	<ul style="list-style-type: none"> 平成17年～20年のイタルダデータ 「社会資本整備重点計画」における事故危険箇所の死傷事故抑止率の目標(3割抑止)を踏まえて、死傷事故件数の3割が発生する上位の箇所を抽出
	② 死傷事故件数	20件/4年以上	・同上
B. 重大事故が発生	③ 事故危険箇所	死傷事故率が100件/億台キロ以上かつ 重大事故率が10件/億台キロ以上かつ 死亡事故率が1件/億台キロ以上 ※社会資本整備重点計画における事故危険箇所(H20.12指定)の要件	<ul style="list-style-type: none"> 平成15年～18年の事故データによる死亡事故件数、重傷事故件数 死亡事故: 死亡者が発生した交通事故 重傷事故: 死亡事故または30日以上の治療を要する事故
	④ 死亡・重大事故	死亡事故・重大事故あり	・平成17年～20年の事故データによる死亡事故件数、重傷事故件数
C. 安全性の懸念	⑤ 地域が懸念する箇所	指摘あり	<ul style="list-style-type: none"> 地方公共団体から提出された要望書 下記のヒアリングおよびアンケート調査の結果 <ul style="list-style-type: none"> → 所轄警察署等、沿線市町へのヒアリング ※死傷事故率100件/億台キロの箇所 → 小学校、交通事業者のプロドライバーへのアンケート → 一般ドライバーへのWebアンケート調査 ※複数意見かつ死傷事故率100件/億台キロの箇所
	⑥ 公安委員会の指摘	指摘あり	・公安委員会から道路管理者への対策要望の有無
	⑦ 道路管理者の点検	指摘あり	・道路構造上等問題のある箇所

2. 宮崎県内直轄国道における取り組み経緯

(2)事故危険区間リストの作成

<歩道整備(歩行者事故対策)が必要な区間の抽出の条件>

	抽出指標	条件	使用データ・考え方
D. 歩道の整備状況	⑧両側の歩道幅員	両側2m未満	・道路台帳、現地確認による歩道幅員
	⑨通学路指定状況	指定あり	・法指定通学路、学校指定通学路の指定状況
	⑩通学者有無	通学者あり	・歩行者交通量調査結果
	⑪歩行者事故件数	1件/4年以上	・平成17年～20年交通事故統計データ(人対車両事故(通行中))
	⑫連続する歩道の必要性	未整備100m未満 またはバス停あり	・道路台帳、現地確認による歩道幅員 ・道路台帳によるバス停設置状況
	⑬歩行者・自転車通行量	歩行者500人/日 以上かつ自転車 500台/日以上	・H17センサス交通量(歩行者、自転車) ・「地方部の歩道設計の考え方(九州地方整備局道路部)の自歩道整備の基準値に基づき、特に歩行者・自転車通行量が多い箇所を抽出
E. 安全性の懸念	⑭地域が懸念する箇所	指摘あり	・地方公共団体から提出された要望書 ・下記のヒアリングおよびアンケート調査の結果 →所轄警察署等、沿線市町へのヒアリング ※歩道幅員2m未満の箇所 →小学校、交通事業者のプロドライバーへのアンケート調査 →一般ドライバーへのWebアンケート調査 ※複数意見かつ歩道幅員2m未満の箇所

2. 宮崎県内直轄国道における取り組み経緯

選定方法

STEP1
事故・歩道データの分析、地域の声の把握

STEP2
事故危険区間リストの抽出

- A. 事故が多発**
 - ・死傷事故率が高い
 - ・死傷事故件数が多い
- B. 重大事故が発生**
 - ・事故危険箇所
 - ・死亡、重大事故が発生
- C. 地域からの意見**
 - ・地域の指摘する箇所
 - ・公安委員会からの指摘があった箇所
 - ・道路管理者の点検による対策必要箇所
- D. 歩道の整備状況**
 - ・両側の歩道幅員が2m未満
 - ・通学路指定あり
 - ・通学者（小中高）あり
 - ・歩行者事故が発生
 - ・連続する歩道が必要
- E. 地域からの意見**
 - ・地域の指摘する箇所

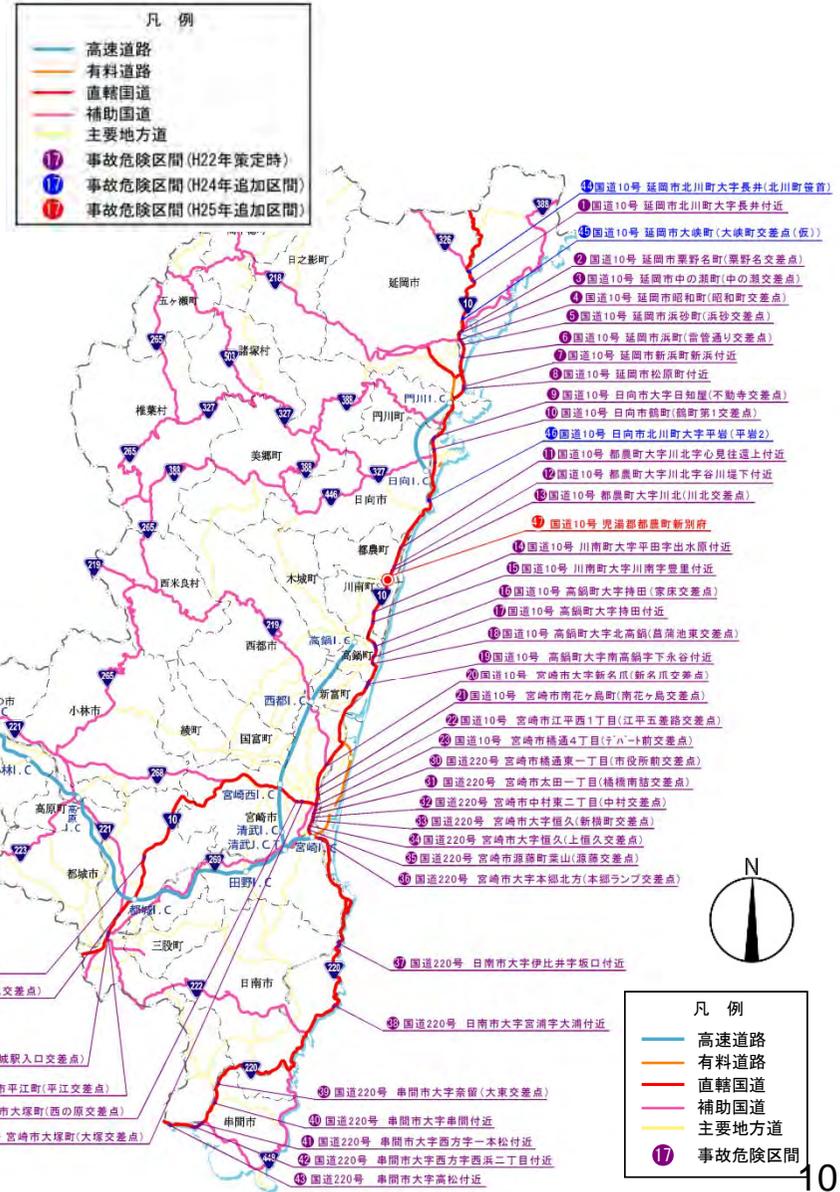
STEP3
事故危険区間の選定

- 【選定の考え方】**
- ①事故多発区間【10区間】
 - ②事故の危険性が高く、事故対策が望まれる区間【30区間】
 - ③地域の意見から、事故対策が強く望まれる区間【7区間】

「事故ゼロプラン(事故危険区間重点解消作戦)」位置図

番号	路線名(区間名)	死傷事故率(件/億キロ)	死傷事故件数(件/4年)	事故危険区間リスト抽出理由				
				A 事故が多発	B 重大事故が発生	C 地域からの意見	D 歩道の整備状況	E 地域からの意見
1	国道10号 延岡市北川町大字長井付近	120.9	11	●	●	●	●	●
2	国道10号 延岡市栗野名町(栗野名交差点)	465.2	30	●	●	●	●	●
3	国道10号 延岡市中の瀬町(中の瀬交差点)	263.6	17	●	●	●	●	●
4	国道10号 延岡市昭和町(昭和町交差点)	728.8	47	●	●	●	●	●
5	国道10号 延岡市浜砂町(浜砂交差点)	232.6	15	●	●	●	●	●
6	国道10号 延岡市浜町(雷普通り交差点)	682.2	44	●	●	●	●	●
7	国道10号 延岡市新浜町付近	148.0	8	●	●	●	●	●
8	国道10号 延岡市松原町付近	81.0	2	●	●	●	●	●
9	国道10号 日向市大字日知屋(不動寺交差点)	566.9	29	●	●	●	●	●
10	国道10号 日向市鶴町(鶴町第1交差点)	465.8	22	●	●	●	●	●
11	国道10号 都農町大字川北字心見往還上付近	70.2	4	●	●	●	●	●
12	国道10号 都農町大字川北字谷川堤下付近	52.7	3	●	●	●	●	●
13	国道10号 都農町大字川北(川北交差点)	421.3	12	●	●	●	●	●
14	国道10号 川南町大字平田字出水原付近	147.5	10	●	●	●	●	●
15	国道10号 川南町大字川南字壺里付近	54.3	3	●	●	●	●	●
16	国道10号 高鍋町大字持田付近(家床交差点)	504.2	9	●	●	●	●	●
17	国道10号 高鍋町大字持田付近	140.0	5	●	●	●	●	●
18	国道10号 高鍋町大字北高鍋(菖蒲池東交差点)	618.2	11	●	●	●	●	●
19	国道10号 高鍋町大字南高鍋字下永谷付近	224.1	8	●	●	●	●	●
20	国道10号 宮崎市大字新名爪(新名爪交差点)	914.0	30	●	●	●	●	●
21	国道10号 宮崎市南花ヶ島町(南花ヶ島交差点)	1,002.6	48	●	●	●	●	●
22	国道10号 宮崎市江平西1丁目(江平五差路交差点)	684.4	35	●	●	●	●	●
23	国道10号 宮崎市橋通4丁目(行ハト前交差点)	1,056.0	54	●	●	●	●	●
24	国道10号 宮崎市大塚町(大塚交差点)	922.2	45	●	●	●	●	●
25	国道10号 宮崎市大塚町(西の原交差点)	614.8	30	●	●	●	●	●
26	国道10号 都城市高城町石山字園田付近	286.4	5	●	●	●	●	●
27	国道10号 都城市都北町(都北交差点)	683.0	34	●	●	●	●	●
28	国道10号 都城市平江町(都城駅入口交差点)	602.6	30	●	●	●	●	●
29	国道10号 都城市平江町(平江交差点)	476.8	19	●	●	●	●	●
30	国道220号 宮崎市橋通東一丁目(市役所前交差点)	1,014.3	50	●	●	●	●	●
31	国道220号 宮崎市太田一丁目(橋橋南詰交差点)	872.3	43	●	●	●	●	●
32	国道220号 宮崎市中村東二丁目(中村交差点)	983.3	51	●	●	●	●	●
33	国道220号 宮崎市大字恒久(新横町交差点)	575.4	36	●	●	●	●	●
34	国道220号 宮崎市大字恒久(上恒久交差点)	479.5	30	●	●	●	●	●
35	国道220号 宮崎市源藤町美山(源藤交差点)	959.0	60	●	●	●	●	●
36	国道220号 宮崎市大字本郷北方(本郷ランプ交差点)	1,232.1	56	●	●	●	●	●
37	国道220号 日南市大字伊比井字坂口付近	200.5	22	●	●	●	●	●
38	国道220号 日南市大字宮浦字大浦付近	0.0	0	●	●	●	●	●
39	国道220号 串間市大字奈留(大東交差点)	575.4	5	●	●	●	●	●
40	国道220号 串間市大字串間付近	86.1	4	●	●	●	●	●
41	国道220号 串間市大字西字一本松付近	166.4	9	●	●	●	●	●
42	国道220号 串間市大字西字西浜二丁目付近	110.9	1	●	●	●	●	●
43	国道220号 串間市大字高松付近	52.6	4	●	●	●	●	●
44	国道10号 延岡市北川町大字長井(北川町笹首)	65.9	6	●	●	●	●	●
45	国道10号 延岡市大塚町(大塚町交差点(仮))	263.8	4	●	●	●	●	●
46	国道10号 日向市大字平岩(平岩2)	266.6	10	●	●	●	●	●
47	国道10号 児湯郡都農町新別府	88.5	6	●	●	●	●	●

※死傷事故率及び死傷事故件数はH20-H23イタルデータ。



凡例

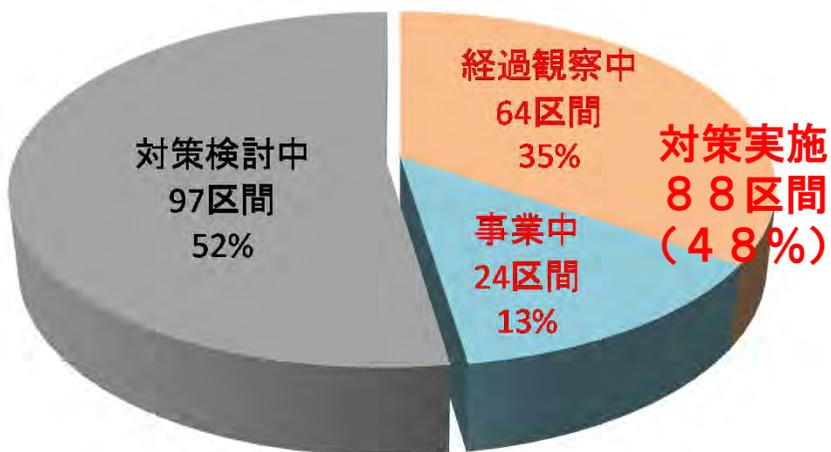
- 高速道路
- 有料道路
- 直轄国道
- 補助国道
- 主要地方道
- ⑰ 事故危険区間

2. 宮崎県内直轄国道における取り組み経緯

(3) 事業の進捗状況

- 事故ゼロプランが導入された平成22年度以降、未対策区間を優先して着々と対策実施中
- 対策済み（経過観察中）の区間が64区間、事業中区間が24区間
- 事故危険区間185区間のうち、現在88区間（48%）で対策実施

	宮崎河川 国道事務所	延岡河川 国道事務所	合計
経過観察中	48区間	16区間	64区間
事業中	14区間	10区間	24区間
対策検討中	77区間	20区間	97区間
合計	139区間	46区間	185区間



▲事故危険区間リストの対応状況



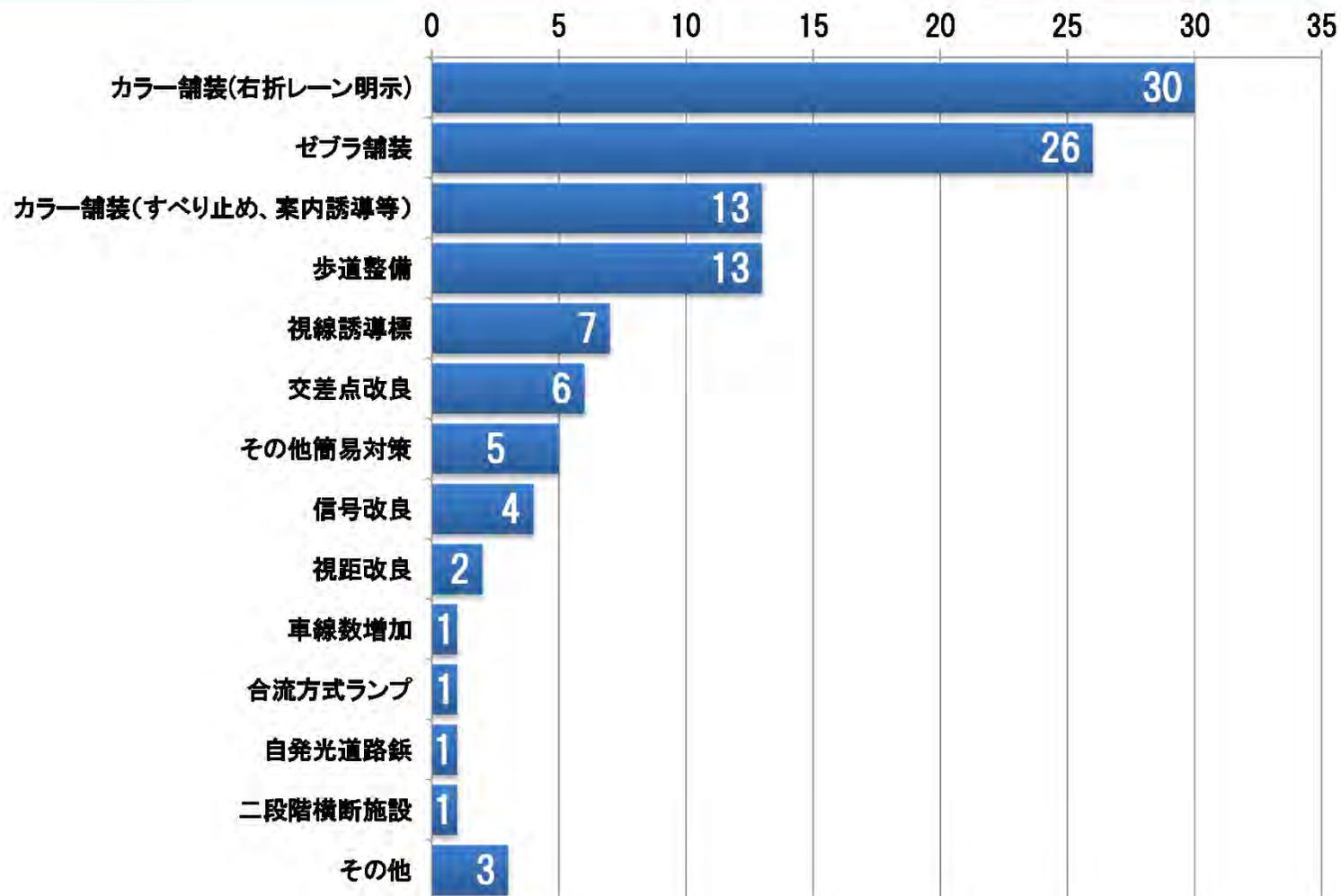
▲完了年度別の対策区間数

2. 宮崎県内直轄国道における取り組み経緯

事故プラン展開中

(3) 事業の進捗状況

- 対策済み区間における対策の内容は、路面へのカラー舗装、歩道整備、交差点改良が多い



▲ 対策実施内容

※ 対策内容を示したもので、対策区間数とは合わない

2. 宮崎県内直轄国道における取り組み経緯

事故プラン展開中

(3)事業の進捗状況

- **事故を抑制する対策**として、交差点改良、カラー舗装、歩車分離信号の導入等を実施



▲国道10号 江平5差路交差点
(宮崎市江平西1丁目)

▲国道10号 雷管交差点
(宮崎県延岡市緑ヶ丘)

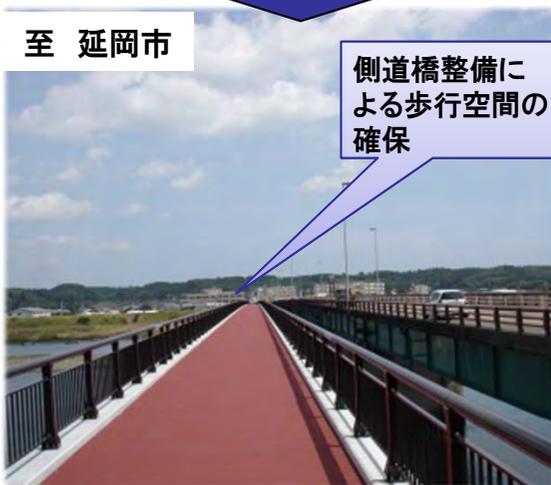
▲国道10号 新名爪交差点
(宮崎市大字新名爪)

2. 宮崎県内直轄国道における取り組み経緯

事故プラン展開中

(3) 事業の進捗状況

- 歩行者、自転車の安全を確保する対策として、歩道整備や横断施設整備等を実施



▲国道10号 高鍋大橋側道橋
(高鍋町持田)

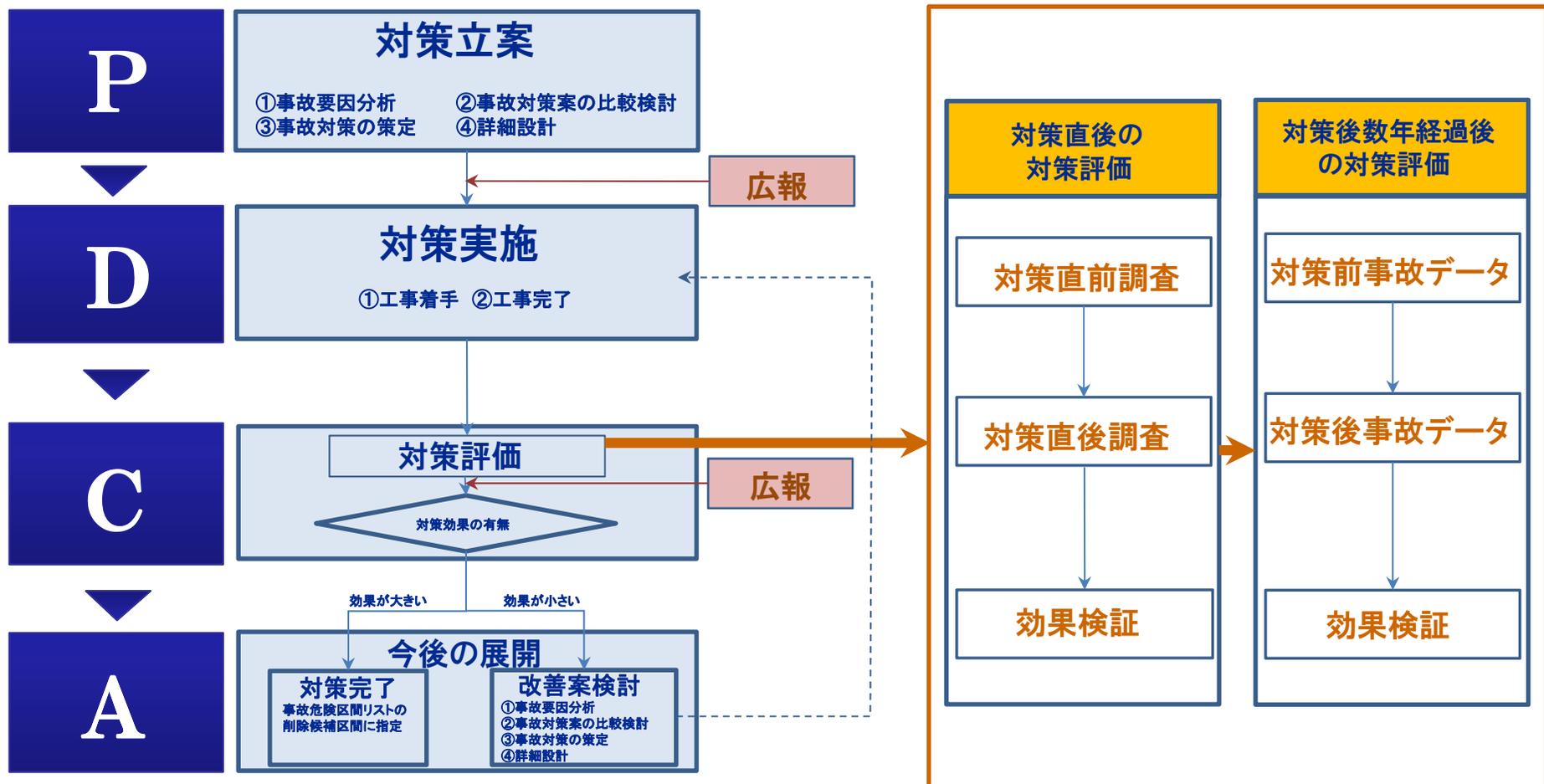
▲国道10号 松原町
(延岡市松原町)

▲国道10号 平田地区
(川南町大字平田)

2. 宮崎県内直轄国道における取り組み経緯

(4) 対策の進め方

- PDCAサイクルを回すことにより、対策効果をさらに向上させることを目指す
- 対策評価は、対策前後調査と事故データにより検証
- 対策立案、対策評価の際は、その内容を記者発表等の広報により周知



2. 宮崎県内直轄国道における取り組み経緯

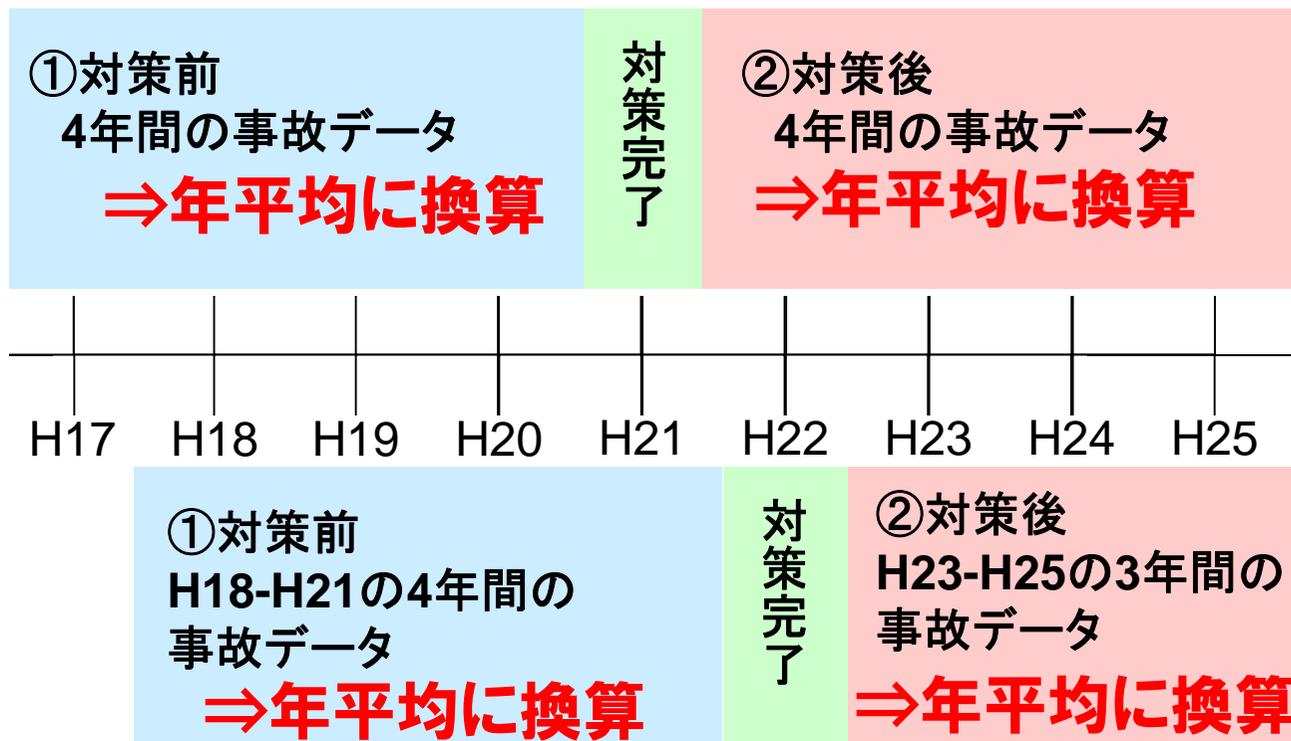
(5) 対策の評価

- 対策前後の4年間の事故データを年平均に換算して、事故発生件数の減少・増加を判定
- 平成26年以降は事故データ整理中のため、平成22年以降対策区間は4年間に満たない事故データにて対策後データを評価

■ 交通事故は偶発的事象であるため、1年間の事故件数では信頼性が低い



4年間の事故データを年平均に換算して、当該区間の危険性を評価するのが一般的



②対策後－①対策前＝正・・・事故発生件数減少(効果有)
負・・・事故発生件数増加(効果無)

2. 宮崎県内直轄国道における取り組み経緯

(5) 対策の評価

- 対策後の事故データが把握できる対策済み区間(43区間)のうち、27区間(63%)で事故が減少
- 最も削減件数が多いのは、昭和町交差点(延岡市昭和町)であり、年平均8.5件削減
- 一方で、事故が増加した区間もあるため、追加対策の検討等が必要

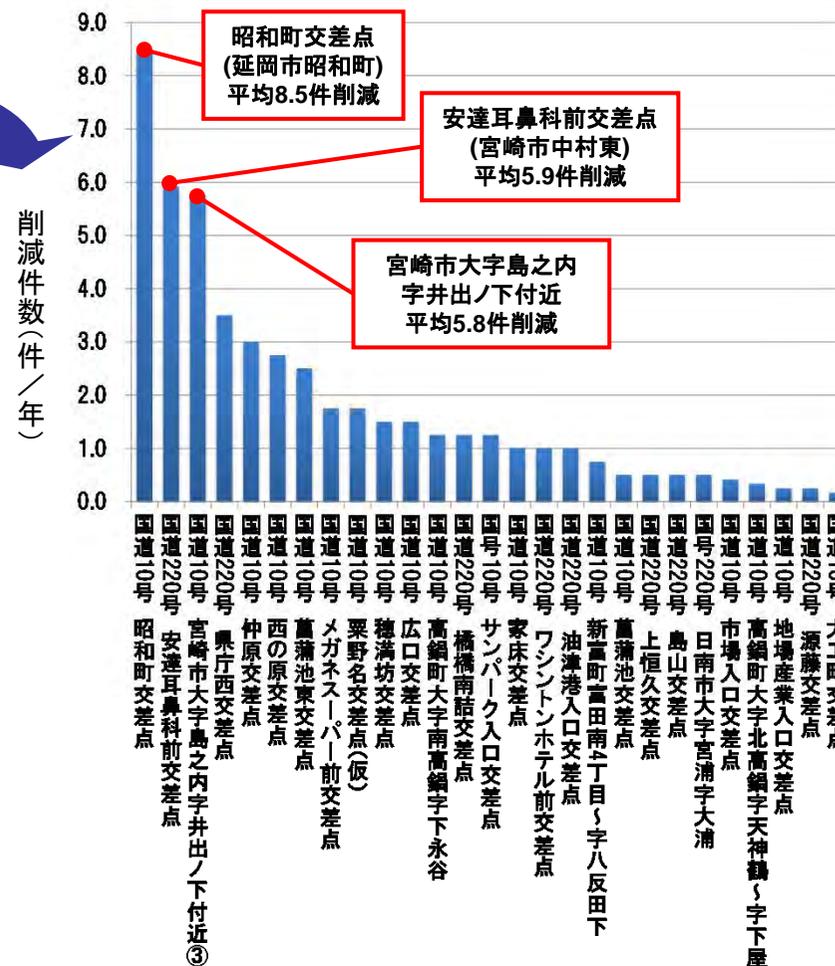


63%(27区間)が効果あり

▲対策済み区間の事故対策効果(43区間)

※対策後の事故データが把握できる43区間にて整理 (H24以前に対策を実施)

※対策後の事故データが把握できない区間は今後引き続き経過を観察



▲対策済み区間の事故削減件数

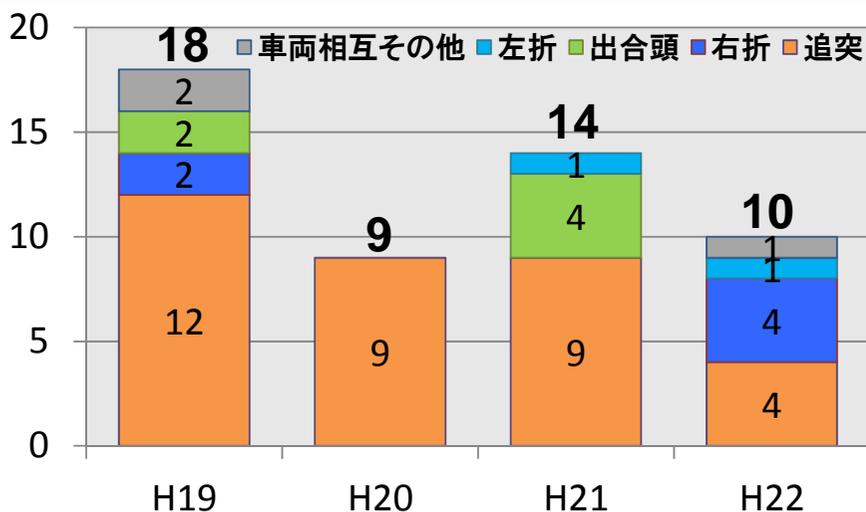
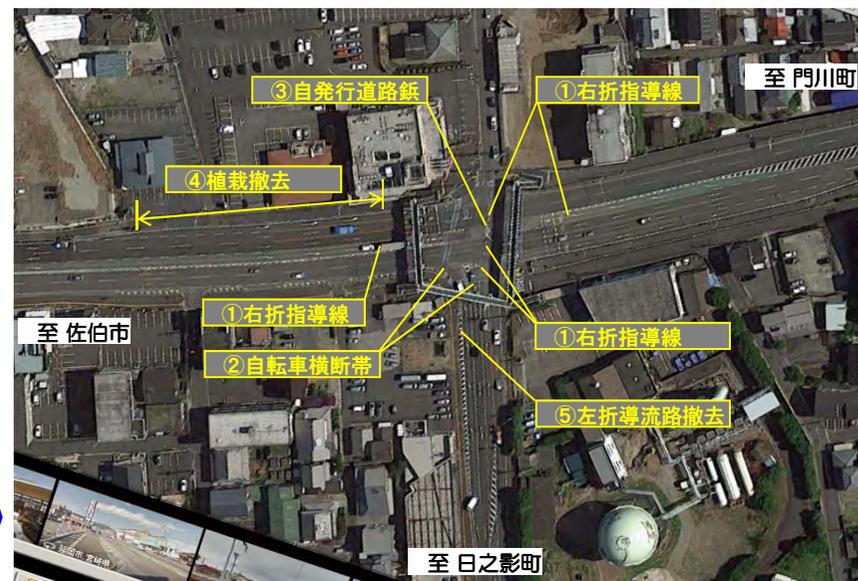
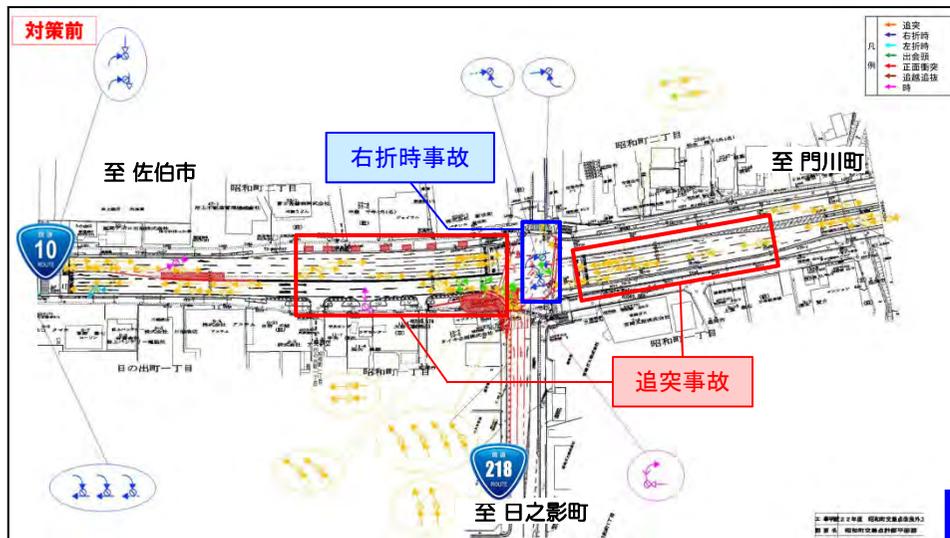
※対策後の事故データにて削減効果が見られた27区間にて整理 17

2. 宮崎県内直轄国道における取り組み経緯



(6)対策事例① 国道10号 昭和町交差点(延岡市昭和町)

- 昭和町交差点では、追突事故を中心に年間約13件の死傷事故が発生 (H19~H22)
- これらの死傷事故を削減するため、H23年に5つの複合対策を実施



▲対策前の事故発生状況

▲対策実施内容

- ①右折指導線:右折車の走行位置と待機位置を明示
- ②自転車横断帯:自転車通行に対するドライバー認識を向上
- ③自発光道路鉄:交差点中心を明示
- ④植栽撤去:歩道や沿道出入り時の視認性を向上
- ⑤左折導流路撤去:左折車の速度抑制

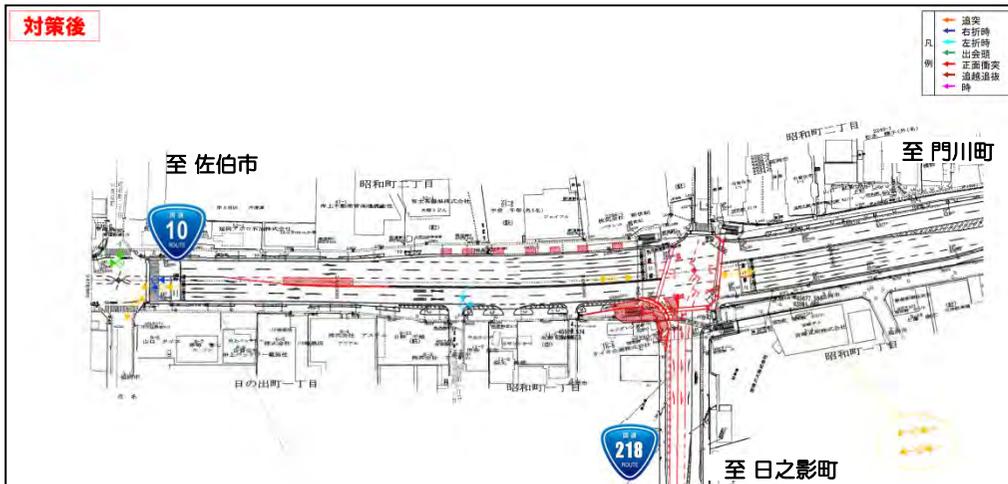
2. 宮崎県内直轄国道における取り組み経緯

事故ゼロプラン展開中

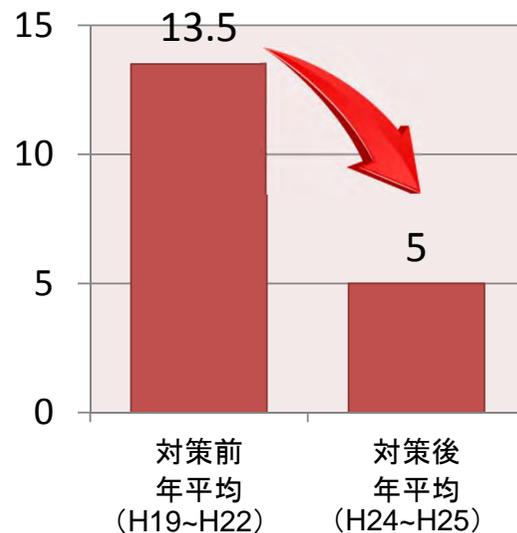
(6)対策事例① 国道10号 昭和町交差点(延岡市昭和町)



- 対策後、死傷事故が年平均で8.5件減少
- 東九州道開通に伴う渋滞解消も事故削減に寄与



▲対策実施状況



▲対策前後の事故件数

宮崎県内の対策済み区間中、
事故削減件数が、

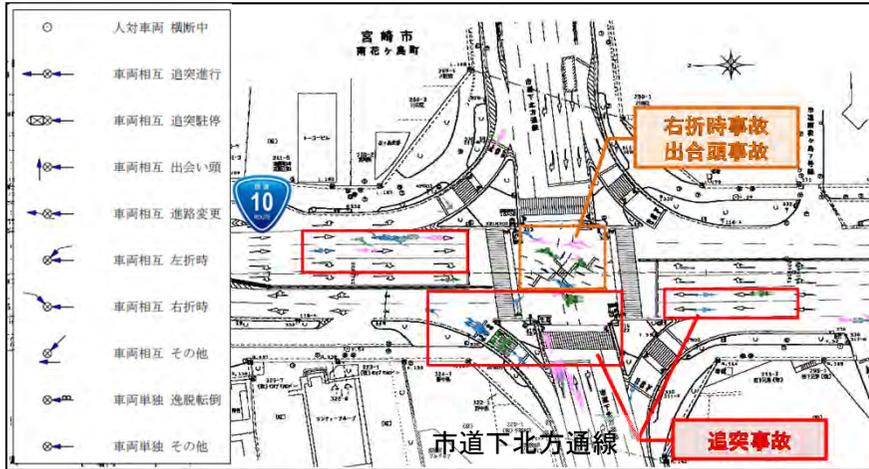
最多

2. 宮崎県内直轄国道における取り組み経緯

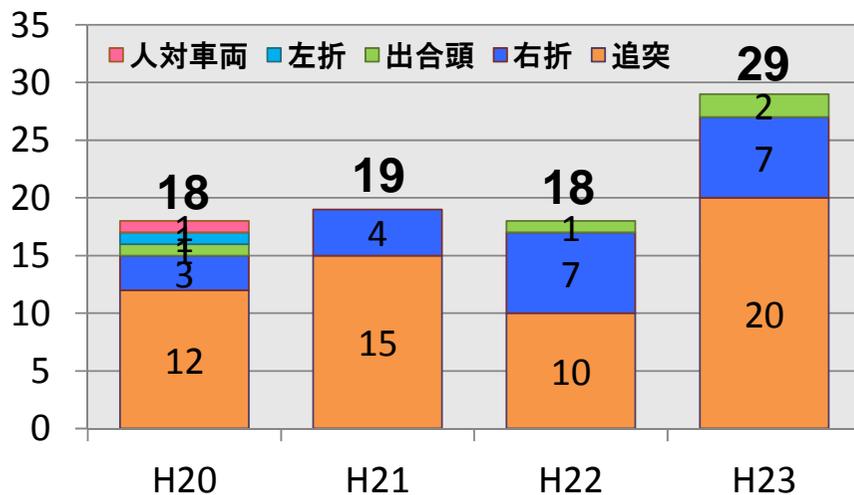
(6) 対策事例② 国道10号 南花ヶ島交差点(宮崎市南花ヶ島町)



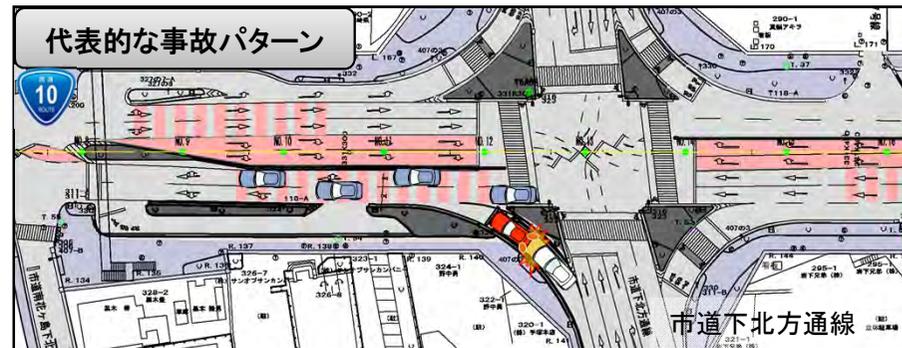
- 南花ヶ島交差点では、左折導流路部分の追突を中心に年間20件～30件程度の事故が発生
- 対策として、左折加速車線の設置、ドットライン、路面標示等を実施



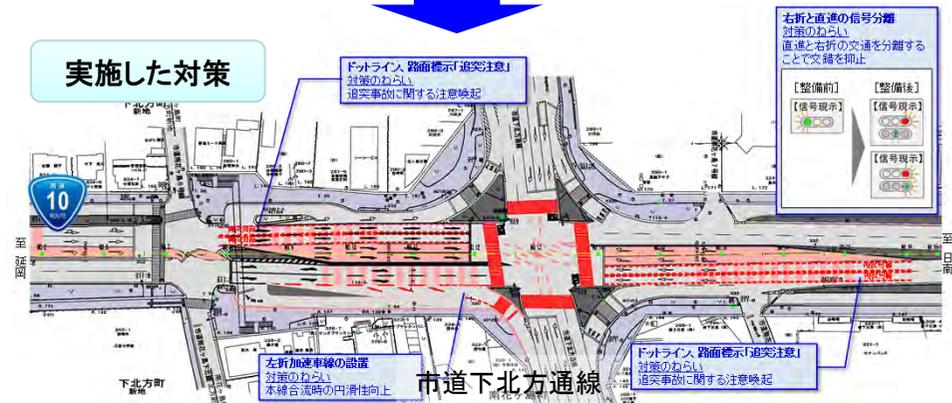
▲対策前の事故発生状況



▲対策前の事故発生状況



実施した対策



▲対策実施内容

- ①左折加速車線の設置:本線合流時の円滑性向上
- ②ドットライン:追突事故に関する注意喚起
- ③路面標示「追突注意」:追突事故に関する注意喚起
- ④右折と直進の信号分離:直進車両と右折車両の分離

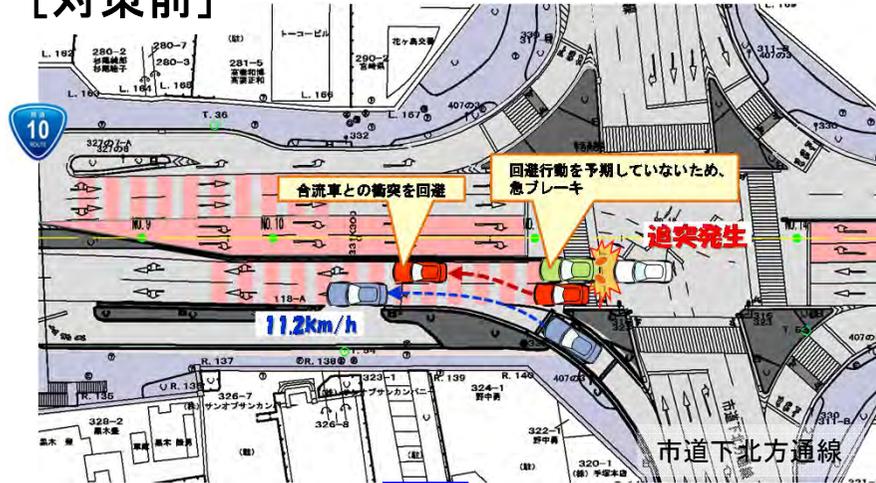
2. 宮崎県内直轄国道における取り組み経緯



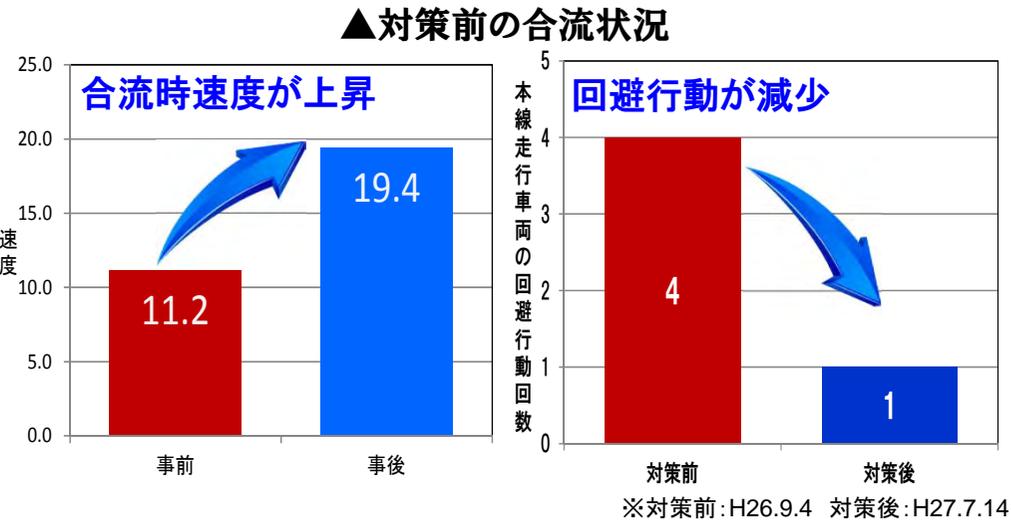
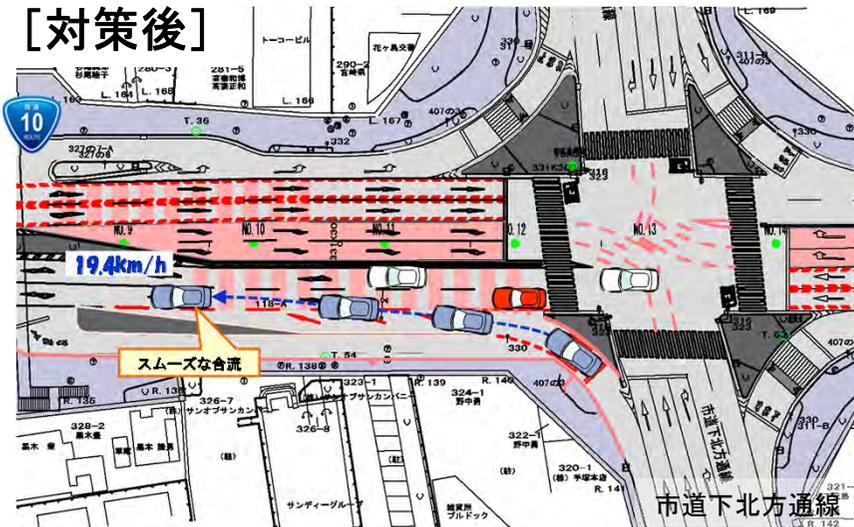
(6)対策事例② 国道10号 南花ヶ島交差点(宮崎市南花ヶ島町)

- 左折車の合流時速度が上昇し左折挙動が円滑化したことで、後続車の回避行動が減少

[対策前]



[対策後]



▲左折合流車両の合流時速度

▲後続車回避行動 21

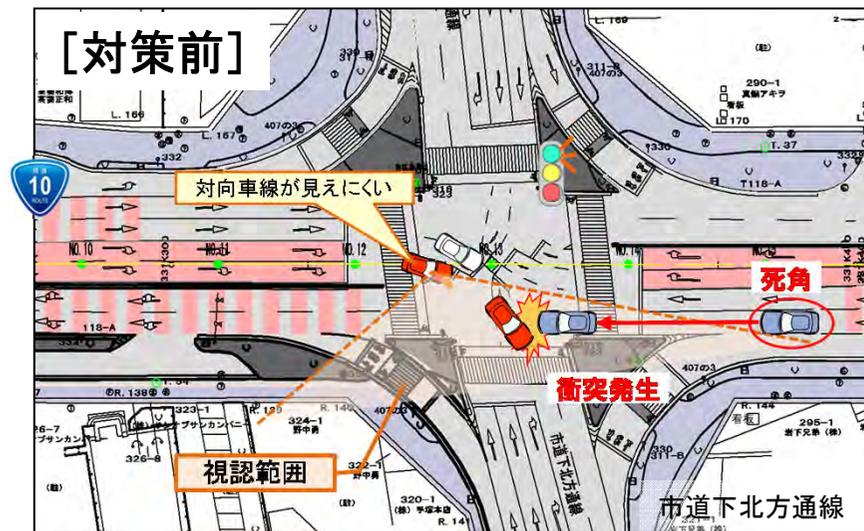
2. 宮崎県直轄国道における取り組み経緯

事故プラン展開中

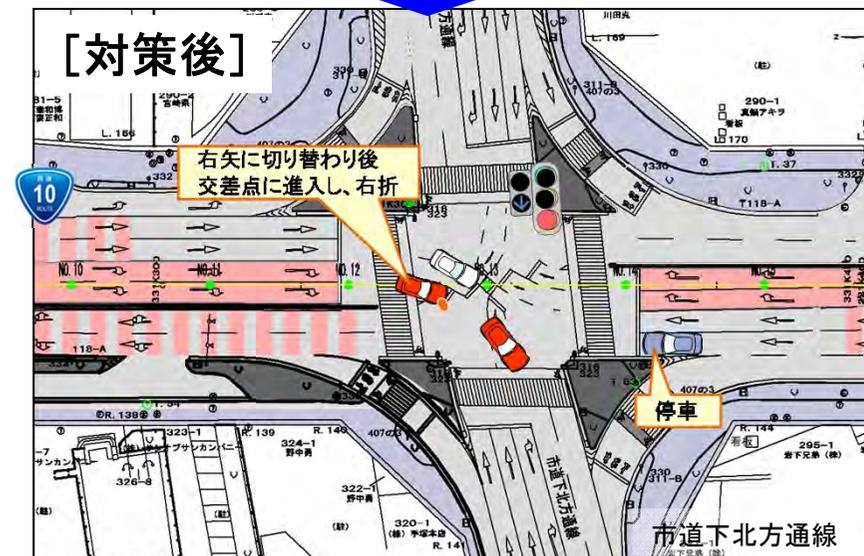
(6)対策事例② 国道10号 南花ヶ島交差点(宮崎市南花ヶ島町)



- 右折と直進の分離信号により、直進車両と右折車両の衝突を回避



▲対策前の合流状況



▲右折直進の分離

2. 宮崎県内直轄国道における取り組み経緯

事故ゼロプラン展開中

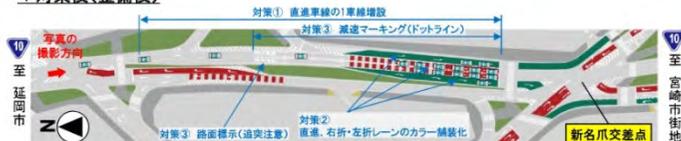
(7) 広報の取り組み

- 事故ゼロプランの取り組みや県内の事故特性を知ってもらい、ドライバーへ注意喚起する。
- データ（事故件数、交通挙動）と利用者実感の両面から、対策後の効果を具体的に伝える。

国道10号 新名爪交差点の交通事故対策

別紙

▼対策後(整備後)



▼新名爪交差点の北流入部の対策前後の道路状況



▲対策完了の広報

川南町平田地区の交通事故対策(二段階横断方式の導入)

別紙1

▼事業の概要(施設名称)



▼(対策前)乱横断の発生状況



歩行者が横断歩道のない場所を横断

▼歩行者への安全対策

- ①横断歩道と横断防止柵を設置して乱横断を防止する。
- ②二段階横断で安全確認(片側車線のみで可)を容易にする。
- ③交通島を設置して横断距離を短くする。

▼ドライバーへの注意喚起対策

- ①横断歩道の明示により横断者があり得ることを意識させる。
- ②停止線前の区間をカラー舗装して注意意識を高める。
- ③センサーが横断者を感じてLED表示板と発光旗が点滅する。

横断方法の説明会 開催日時・場所

別紙2

一般利用の開始に合わせて、利用者の方々を対象とした横断方法の説明会を下記日時にて行います。

- 日 時:平成27年3月27日(金)15:00~15:30
- 場 所:児湯郡川南町平田地区
- 内 容:事業概要ならびに横断方法の説明

▼事業箇所位置図



▼説明場所位置図



▼写真①



▼写真②



▲対策完了の広報



国土交通省 九州地方整備局 宮崎 河川国道事務所
4月8日

【全国でも珍しい『二段階横断施設』でゆとりを持った横断ができるようになりました!】

「事故ゼロプラン(事故危険区間重点解消作戦)」で取り組んでいた国道10号川南町(かみなみちょう)平田(へだ)地区の交通事故対策の工事が完了しました。平成27年3月27日(金)の利用開始日には、地元の方々を招いて、横断方法の説明と渡り初めを行いました。当該箇所で開催される二段階横断施設(※)は、全国でも珍しい横断方式です。これにより、横断距離が短くなるとともに、安全確認(片側車線のみで可)が容易になりました。これまでの乱横断による事故の削減が期待されます。

(※)単路部(交差点以外の区間)において交通島を挟んで互い違いとなっている無信号の横断歩道。



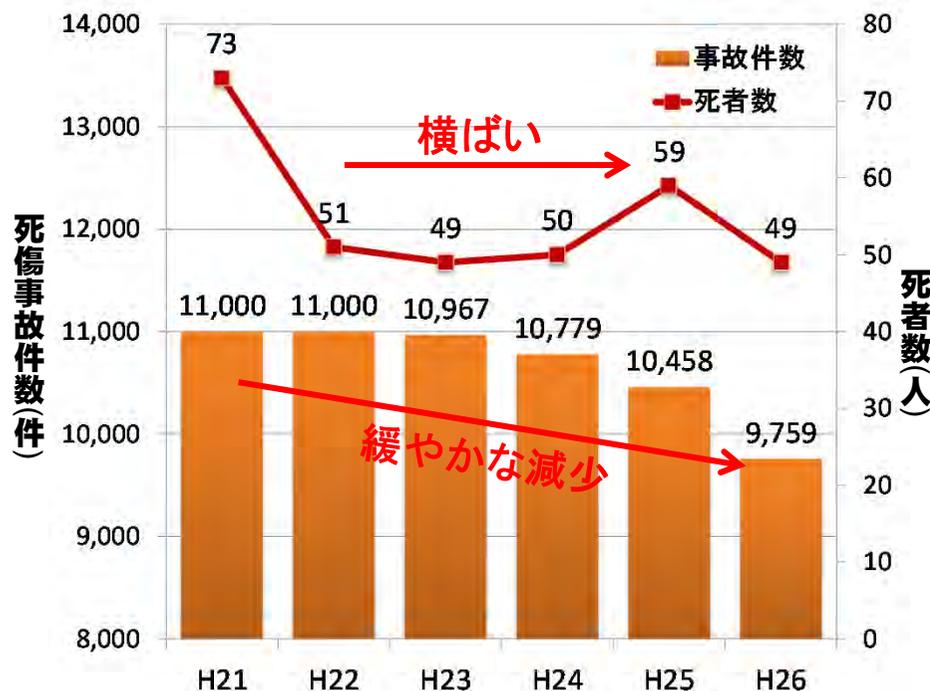
▲Facebookの活用

3. 宮崎県における事故発生特性

3. 宮崎県における事故発生特性

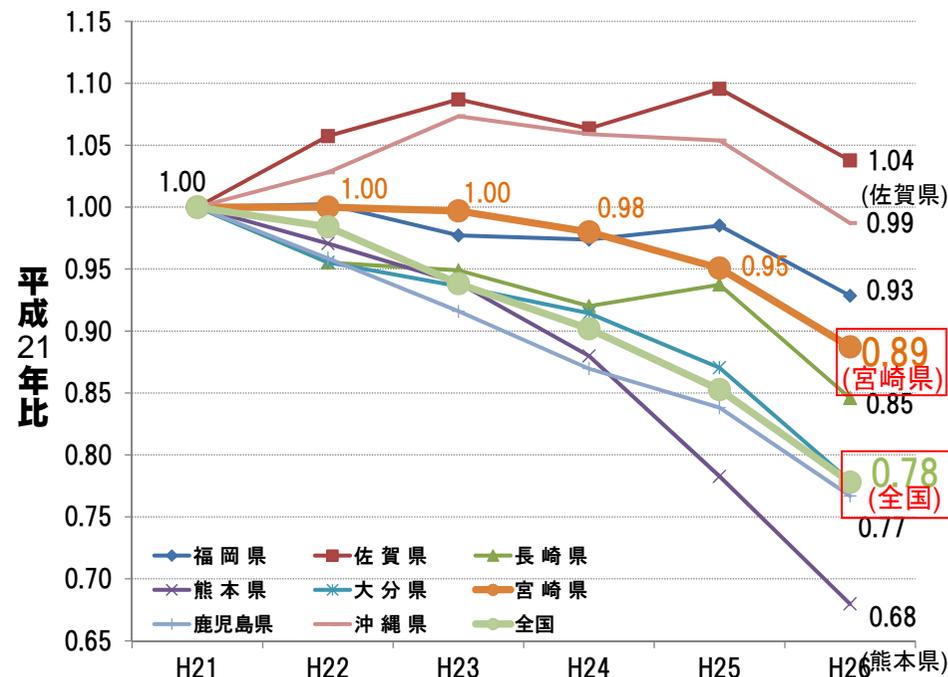
(1) 宮崎県全体の事故発生特性

- 宮崎県内の死傷事故は、緩やかな減少傾向にあり平成26年には年間10,000件を下回った
- 平成26年は平成21年比で0.89であり、全国の0.78には及ばない
- 死者数は横ばいで推移しており、毎年年間50人程度の死者が出ている



▲死傷事故件数・死者数の推移(宮崎県内)

出典: 交通統計 公益財団法人交通事故総合分析センター, 宮崎県警察HP, 警視庁HP



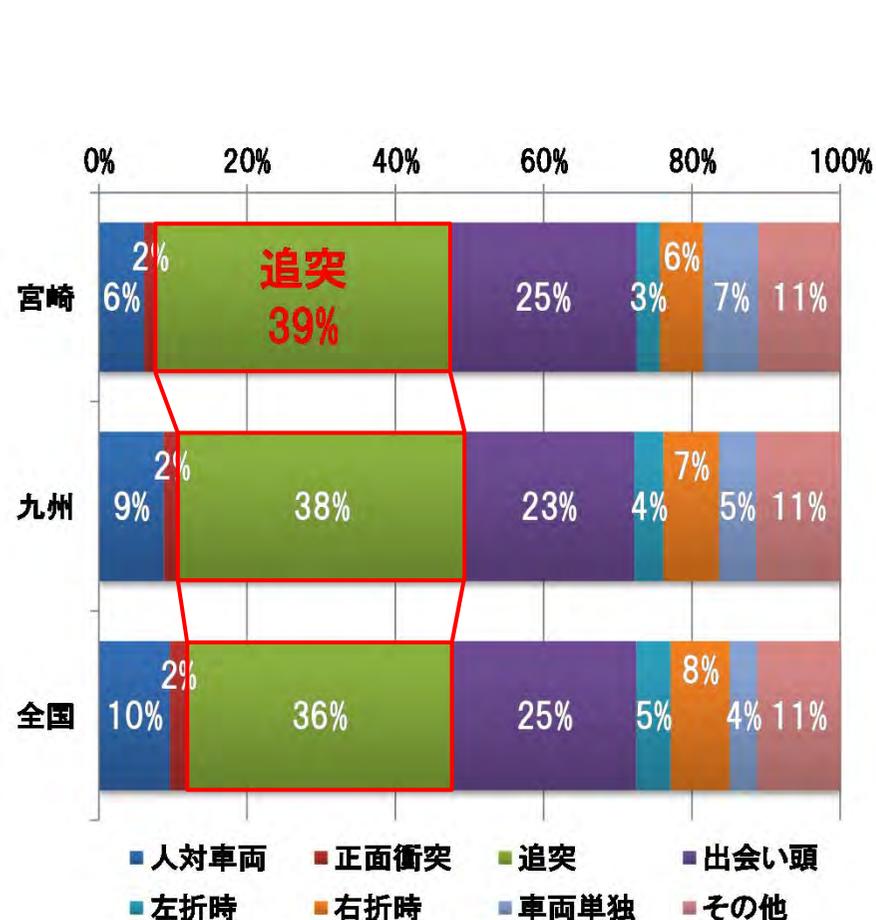
▲死傷事故件数のH21比(宮崎県内)

出典: 交通統計 公益財団法人交通事故総合分析センター

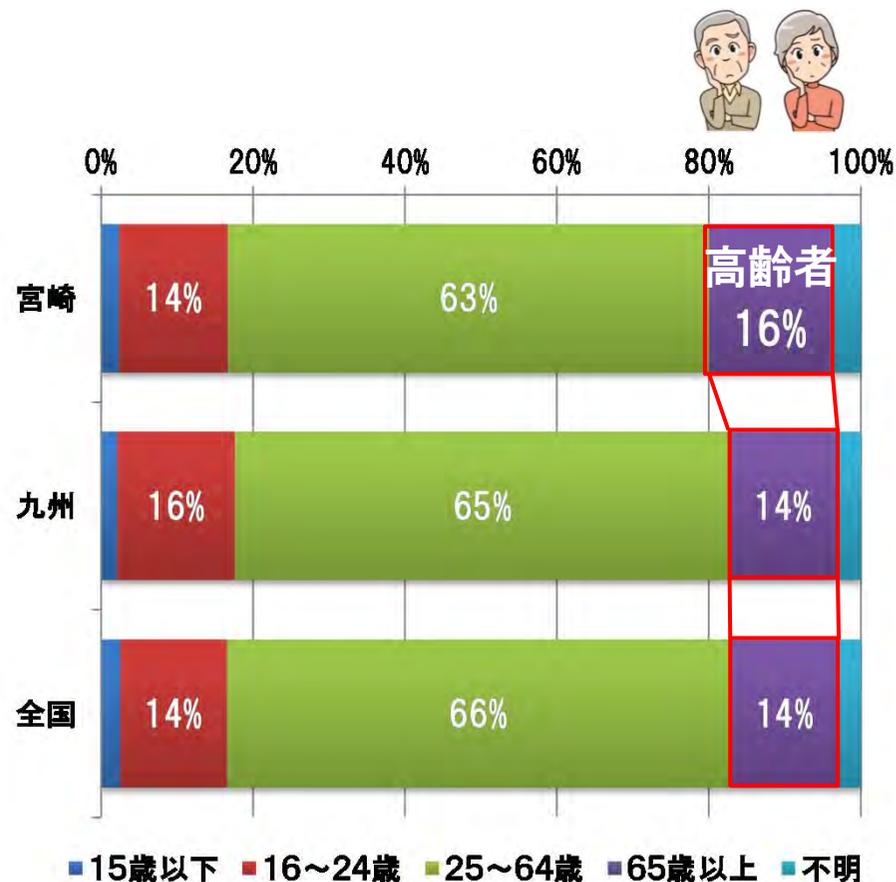
3. 宮崎県における事故発生特性

(2)宮崎県全体の事故発生特性

- 宮崎県は、九州や全国と比較して追突事故の割合が高い
- 九州や全国と比較して、高齢者（65歳以上）が関与する事故の割合が高い



▲事故類型別事故発生割合 (H25)

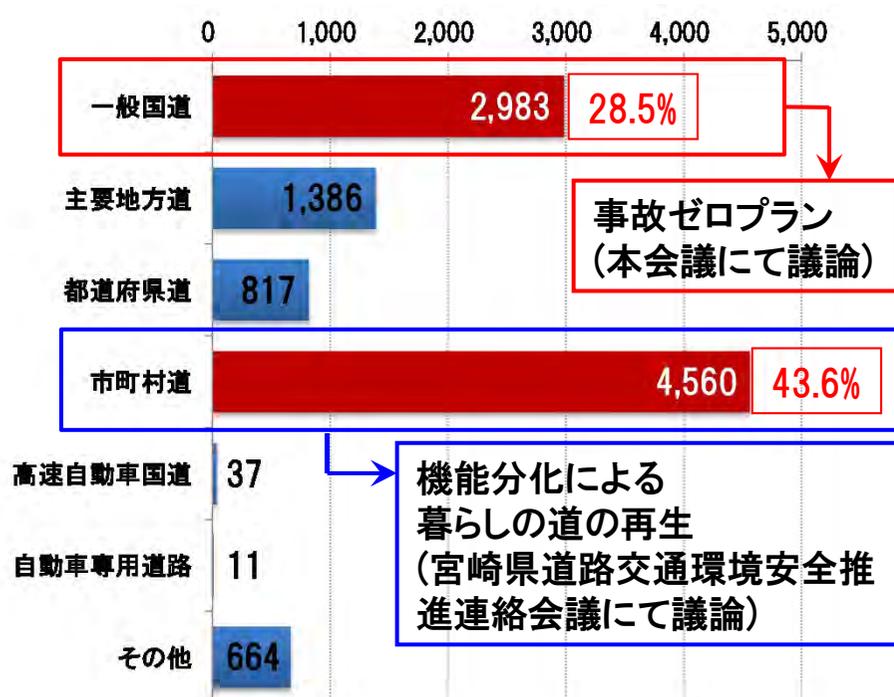


▲年齢別の死傷事故割合 (H25)

3. 宮崎県における事故発生特性

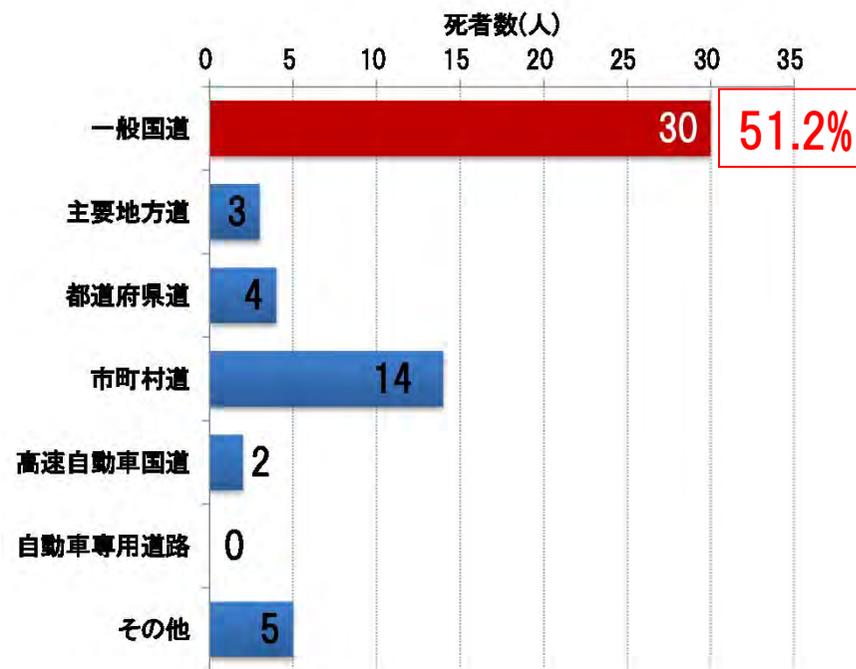
(3)宮崎県全体の事故発生特性

- 宮崎県の死傷事故は一般国道と市町村道で集中的に発生
- 死者数は、一般国道で多く半数以上(51.2%)を占める



※その他:道路運送法の道路・農道・林道・港湾道・私道・その他

▲道路種別別死傷事故件数 (H25)



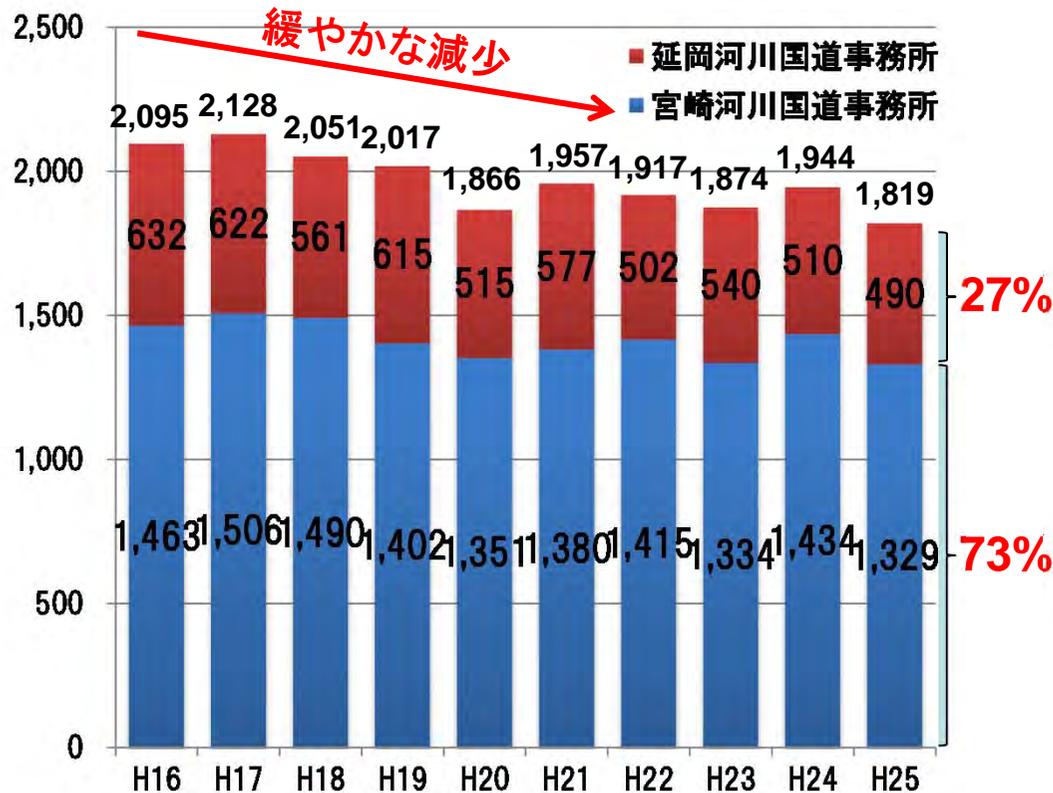
※その他:道路運送法の道路・農道・林道・港湾道・私道・その他

▲道路種別別死者数 (H25)

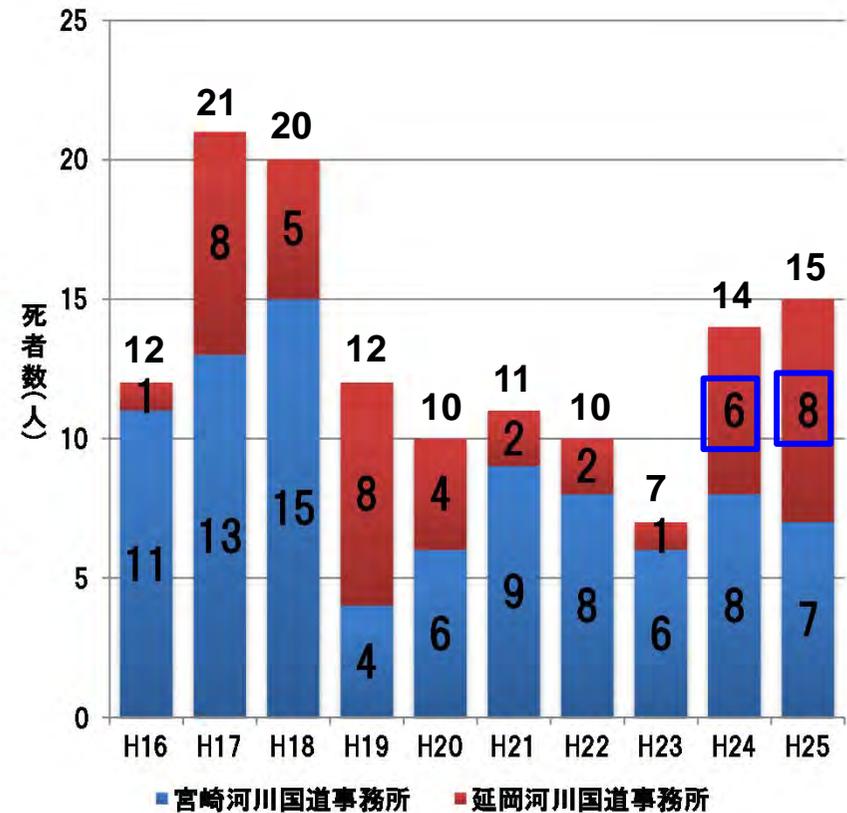
3. 宮崎県における事故発生特性

(1) 直轄国道の事故発生特性

- 宮崎県の直轄国道における死傷事故は、緩やかな減少傾向
- 死傷事故の約3割が延岡河川国道管内、約7割が宮崎河川国道管内で発生
- 死者数は、平成24年・平成25年に急増しており、延岡河川国道管内が特に増加



▲宮崎県内直轄国道の死傷事故件数



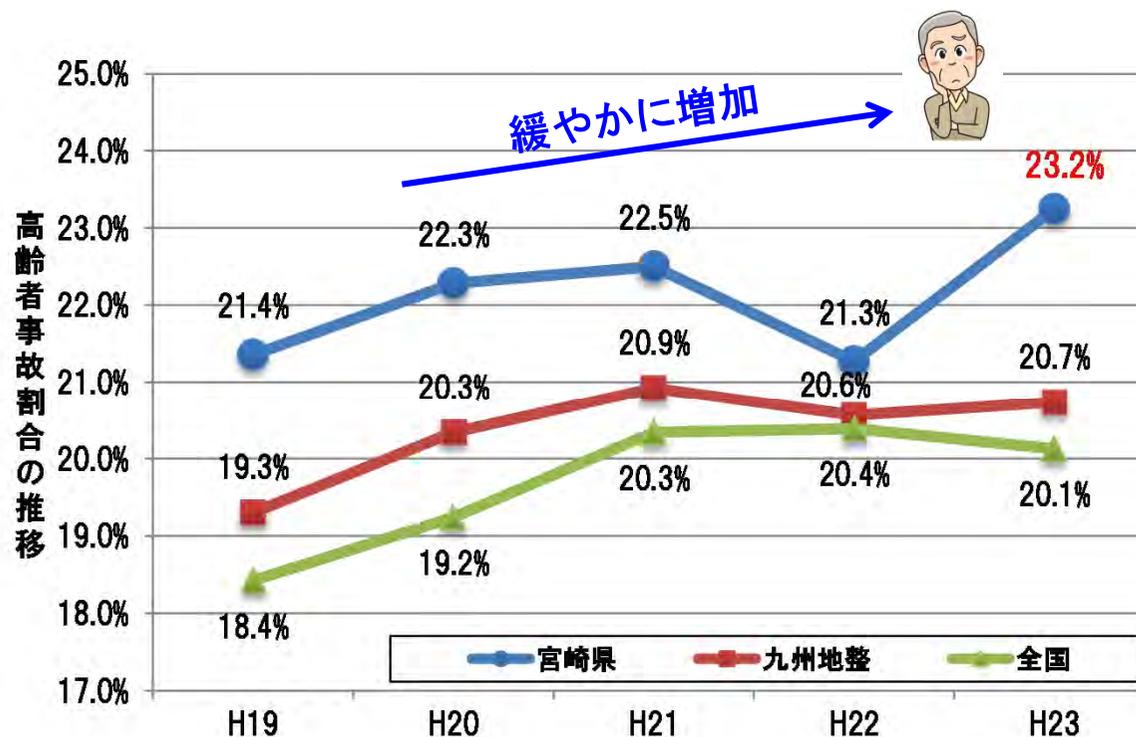
▲宮崎県内直轄国道の死者数

出典：ITARDA事故別データ(H25年度版) 公益財団法人交通事故総合分析センター

3. 宮崎県における事故発生特性

(2)直轄国道の事故発生特性(高齢者事故)

- 宮崎県の直轄国道では、全国・九州と比較して高齢者が関与する事故の割合が高く、近年緩やかに増加している



▲高齢者(65歳以上)事故発生割合の推移

出典:道路管理者別・交通事故分析データ(H24年度版) 公益財団法人交通事故総合分析センター

4. 事故危険区間リストの更新

4. 事故危険区間リストの更新

(1) 事故ゼロプランの展開方針

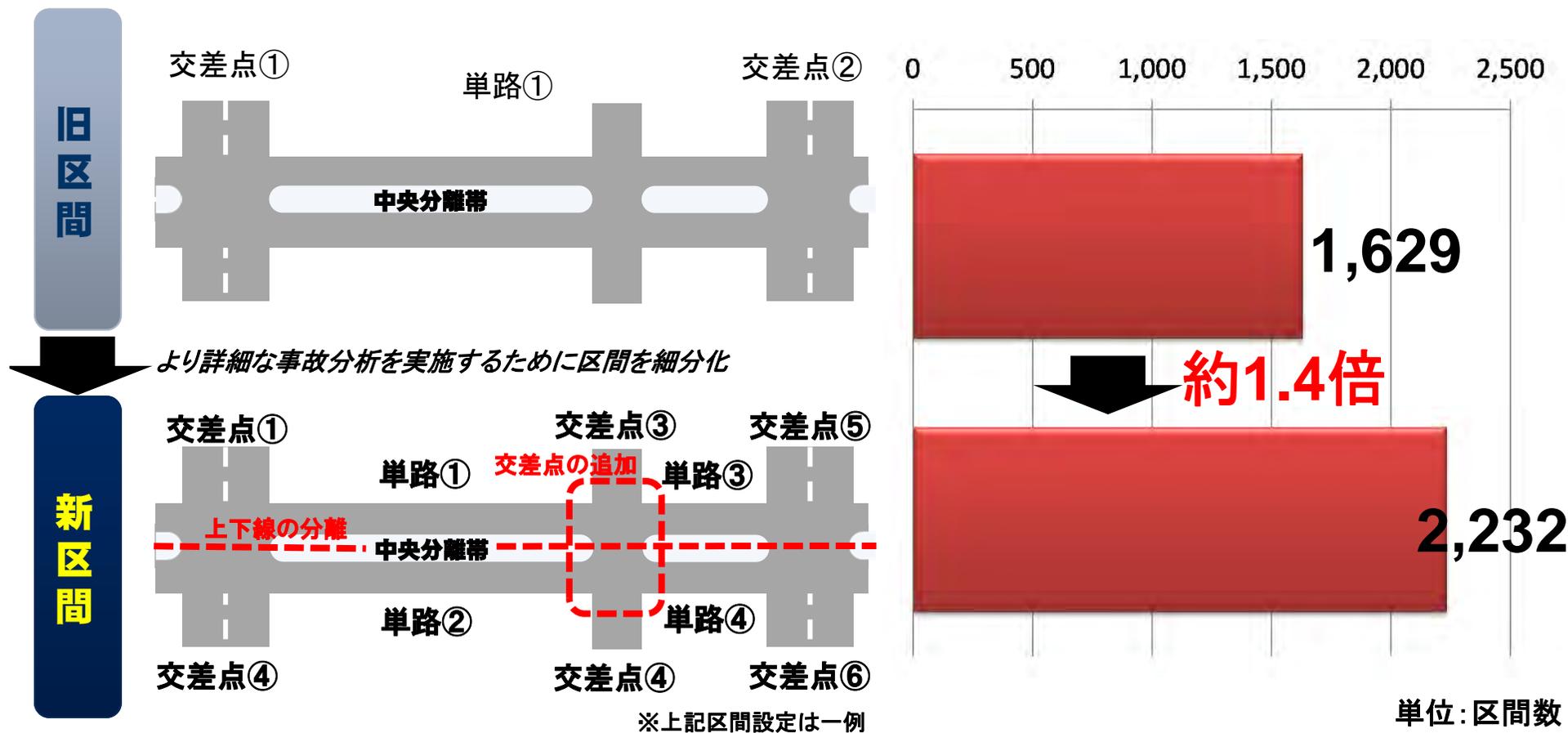
今年度の事故ゼロプランへの展開方針(案)

- 最新の事故データによる見直しを行います。
 - ・平成22年度導入から5年目が経過
 - ・平成22年～平成25年の事故データにより事故危険区間リストを見直し
- 地域の声を収集します。
 - ・平成22年度にヒアリング、アンケートで収集して以来、収集していない
 - ・それ以降、新たに生じた課題がないか確認するため、今年度実施
- 事故発生特性を踏まえて事故危険区間リスト抽出手法の見直しを提案します。
 - ・高齢者が関与する事故の割合が増加傾向
 - ・事故危険区間リスト抽出指標に追加を提案し、高齢者事故発生箇所が抽出されるように仕組みを改善

4. 事故危険区間リストの更新

(2) 事故危険区間リストの更新

- 事故危険区間リストの抽出に用いた事故データの集計単位の変更 (H23~)
- これに合わせて、新たな区間にて事故危険区間リストを再度抽出



4. 事故危険区間リストの更新

(2) 事故危険区間リストの更新

- 平成22年度のリスト抽出フローを踏襲、事故データ等の情報を時点更新することにより、平成26年度版リストを作成
- 宮崎県の最新の事故特性が反映させるため評価指標の見直しを実施

宮崎県内の直轄国道（国道10号:180.8km、国道220号:92.6km、合計273.4km） 2,232区間

事故対策(車両事故対策)が必要な区間の抽出

歩道整備(歩行者事故対策)が必要な区間の抽出

**A. 事故が多発
(データ)**

- ・死傷事故率
 が高い
- ・死傷事故件数
 が多い
- ・**高齢者事故
 が多い**

**B. 重大事故が発生
(データ)**

- ・事故危険箇所
- ・死亡・重大事故が発生

**C. 安全性の懸念
(地域の声)**

- ・地域が懸念する箇所
- ・公安委員会からの指摘があった箇所
- ・道路管理者の点検による対策必要箇所

**D. 歩道の整備状況
(データ)**

- ・両側の歩道幅員が2m未満
- ・通学路指定あり
- ・通学者(小中高)あり
- ・歩行者事故が発生
- ・連続する歩道が必要

**E. 安全性の懸念
(地域の声)**

- ・地域が懸念する箇所

事故危険区間リスト ○○区間

事故の危険性が高く、早期の対策が望まれる区間を抽出

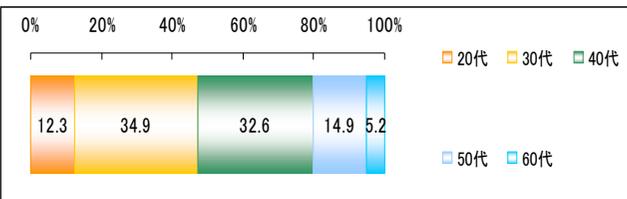
代表箇所 ○○箇所

4. 事故危険区間リストの更新

(3)地域の声の収集について

- 地域住民の実感にあった区間抽出のため、道路利用者等の意見聴取を今年度実施
- 危険だと思われる箇所を地図上に示してもらう方法にて実施

～意見聴取の概要～

項目	意見聴取の対象		聴取結果
ヒアリング調査	沿線自治体 (6市5町)	宮崎河川管内: 宮崎市役所、日南市役所、串間市役所、 都城市役所、都農町役場、川南町役場、 高鍋町役場、新富町役場 延岡河川管内: 延岡市役所、日向市役所、門川町役場	回答市町数: 6市4町 有効回答地点数: 89地点
	警察署(9警察署) ※交通安全協会の 意見含む	宮崎河川管内: 宮崎北警察署、宮崎南警察署、 日南警察署、串間警察署、都城警察署、 高岡警察署、高鍋警察署 延岡河川管内: 延岡警察署、日向警察署	回答所轄数: 9所轄署 有効回答地点数: 76地点
アンケート調査	交通事業者(4社)	社団法人 宮崎県バス協会の協会員(バスドライバー) 社団法人 宮崎県タクシー協会の協会員(タクシードライバー) 社団法人 宮崎県トラック協会の協会員(トラックドライバー) 社団法人 日本自動車連盟 宮崎支部の支部員(ドライバー)	有効回答者数: 37人 有効回答地点数: 166地点
	小学校	国道10号・220号の沿線市町の小学校33校	回答小学校数: 16校 有効回答地点数: 31地点
	一般ドライバー (Webアンケート調査)	国道10号・220号の沿線市町に居住者1,300人 <一般ドライバー-Webアンケート回答者の属性: 年齢(N=1300)> 	有効回答者数: 391人 有効回答地点数: 530地点
意見聴取内容	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故の発生が考えられる、特に危険な箇所と危険な事項 ・歩道整備が必要とされる箇所と整備が必要な理由 		



今年度実施

5. 今後の予定

5. 今後の予定

- H28.2頃 第二回国道10号・220号安全性向上検討委員会を開催予定
 - ・ 事故危険区間リストの抽出（更新）結果
 - ・ 公表区間の選定

